

種智院大學 同窓會報

第 3 号

昭和63年10月15日

京都市南区壬生通八条下る東寺町545番地
種智院大學同窓會事務局

同窓會地方支部

各地で続々と発起人会

昨秋の総会で確認された同窓會の活性化の具体策として、地方支部の結成があったが、この確認のもと、各地で、続々と結成の気運がもり上がってきた。これまで、休止状態であった同窓會本部も、この動きに大いに刺激され、各地で開かれる発起人会・総会の準備やその対応で、大変な忙しさである。

ここで、各地でおこなわれた支部結成の動きについて、詳しく報告していくことにしたい。

京都支部

京都支部は、母校の所在地であり、各派本山が集中するところでもあるため、多くの同窓生を擁している。また、同窓會役員も多く選出されていることもあって、地方支部結成の声がはじめにおこってきた。手嶋千俊副会長、篠畑俊成常任幹事を中心に、京都在住の常任幹事・幹事諸氏に呼びかけ、支部結成の発起人の会合が、6月10日に大学内で行われた。第1回の会合では、設立趣意書、規約などについて詳細に検討され、会議は5時間余りにも及んだ。地方支部の最初であった香川県支部の先例に学びながら、これ以降、多くの地で支部結成がはかられるであろうことを考え、趣意書、規約等は慎重に検討されたのであった。つづいて7月23日第2回の会合を東急ホテルにて開催。総会の日程、次第などについて意見が述べられ、その準備段階を終えたのであった。なお、大学からは井上亮淳教授、嶋裕海講師、田中・都筑両職員が出席した。

滋賀県支部

滋賀県は、会員数20数名という小さな所帯であったが、早くから支部結成の動きがおこり、何とかしようという強い意気込みのなかで出発したのであ

た。同窓會幹事の田居龍空氏、近江高等学校の沢実英氏らと呼ばひかけ人に、7月10日、彦根のホテルデュークで午前11時より開催された。大学から福田泉正教授、嶋裕海講師、同窓會本部から宮城事務局員らが出席。出席人数は残念ながら少数ではあったが、本学において社会福祉学の講義を担当して、長年にわたる福祉の経験を活かして活躍される野路井宏之氏、中学校長退職後、中国語の取得に励み、北京大学等にも留学し、現在は中国残留孤児のお世話をされている斎藤氏、また竹生島宝厳寺貫主峰氏等、多彩なメンバーがそろい、会は大いにもり上がった。今後は、多くの会員が支部会合に参加できるよう種々検討を加え、再会を約して散会となった。

西中国支部

西中国支部は、広島・山口・島根の三県合同で、支部結成をはかろうということで、話が進められた。広島約40名、山口15名、島根10名という会員数であり、まとまってひとつで行うのにふさわしい数でもあった。蛸田弘教同窓會副会長、吉田裕信同窓會監査がよびかけ人となって、発起人会を7月4日、広島県福山市の「川長」において開催。大学から麻生文雄学長、井上亮淳教授、佐藤久光助教授、田中治憲職員、同窓會本部より蛸田宥全事務局員が出席した。会は趣意書・規約等の検討に入った。そこで、とくに同窓會創設の由来、会員資格の問題など、本会の最も重要な問題にも言及された。なお、同発起人会は9月17日（土）広島市において設立総会を開催することを確認して終了した。

岡山県支部

岡山県は約80名の多数の会員数をもつ有力な地域である。この地においても支部結成をとの声があり、7月5日に発起人会が岡山市の「ふじ田」において光沢宏仁氏、生駒研性氏らと呼ばひかけで開催された。大学から井上教授、佐藤久光助教授、田中職員、同窓會から宮城事務局員が出席した。この会では、隣接する鳥取県も含めて、合同で支部結成をはかってはとの提起があり、これを了承し、

鳥取県にも参加を呼びかけることで合意した。さらに設立趣意書、規約等の検討に入り、永続性のある会の運営等にも討議が及んだ。10月5日(水)、岡山市において、岡山県・鳥取県支部結成総会を開催することを確認して終了した。

兵庫県支部

兵庫県は、会員数約130名の多数を数える。この地から支部の結成をということで、同窓会副会長の井上紀生氏、池田瑩輝氏を中心に、中山寺総務部長今井圓明氏、常任幹事加門得勇氏らが呼びかけ人となり、発起人会が7月16日、「天安閣」にて開催された。大学から兵庫県在住の山崎泰廣、頼富本宏両教授、田中職員、宮城本部事務局員が参加。呼びかけ人を代表して井上副会長から挨拶があり、大学を代表して山崎教授より大学の現状等の報告がなされた。続いて討議に入り、今井圓明氏を座長に、趣意書・規約の検討がなされ、本部規約に明記した会員資格等を、それらに盛り込むことを確認。9月29日「天安閣」にて支部結成総会を開催することを決定し、つづいて懇親会に入り、旧交を温めあった。

九州支部

九州地区は、会員が40数名であるため、九州全体でひとつの支部をつくることになった。横のつながりに欠けることが懸念されたのであるが、7月18日午後5時より、佐賀市の観光ホテル「朝風」で開催された支部設立準備会は、九州各地より熱心な同窓生の参加がえられ、支部設立に向かって具体的に準備していくこと、さらには、今後の支部運営について意見が交わされた。大学から、北村太道教授、嶋講師が参加、経過報告、母校の現状について報告。設立総会を8月30日、佐賀市において開催することを確認して閉会した。

奈良県支部

奈良県における支部結成の動きは、7月30日、西大寺において、支部結成のために、田畑祐弘氏、村岸常光氏、松尾初子氏ら有志が集まって準備会をもち、大学から夏目祐伸教授、中村幸子助教授、宮城本部事務局員、都筑職員が参加した。それまで、本部との交流の中で、約40名の同窓生が在住し、各方面で活躍していることが確認されていただけに、早い対応がみられ、8月23日に西大寺において発起人会が開催されるに至った。発起人会では西大寺宗務総長谷口光明氏が座長になり、大学から夏目祐伸教授、宮城本部事務局員も参加して、支部設立のための具体的な事項の検討に入った。その結果、奈良県在住の同窓生諸氏の一致協力により、支部設立を提案していくことが確認され、9月29日に橿原市において、設立総会を開催することを決定した。

徳島支部

9月13日、徳島市において発起人会を開催。発起人13名が出席、大学からは山崎教授、北村教授、吉田元助教授らが参加。会はず発起人を代表して沖田定信氏、岡本慈勝氏が挨拶し、つづいて支部設立について協議し、名簿等の充実を図ること、規約案、総会次第について検討し、10月7日に総会を開催することを了承して懇談に入った。この席では大学の現状の報告もあって、参加者一同は思いを母校にはせたのであった。

*

この他、現在、進められている支部設立の動きは、次のとおりである。

北陸支部—福井・石川・富山・新潟四県合同で準備を開始。地域的な広さ、会員の少なさなど困難な課題を抱えているが、熱心な会員の方々の働きかけにより、10月4日の総会を目標としている。

愛媛支部—9月4日、設立準備のため、佐藤助教授、吉田助教授、岩城秀親職員らが神野龍幸氏を訪問、設立のための打ち合わせを行った。

関東支部—9月4日、神奈川県・東京都を中心に準備をすすめるべく、井上教授、田中職員が一月正空氏、峰孝雅氏、渡辺孝蔵氏と打ち合わせを行った。

東海支部—静岡県・三重県・愛知県を中心に、設立準備のため田中職員が、9月4日、および9月9日に望月憲雅氏、高井実成氏、天野智之氏らと会見した。

コンタクトレンズ専門相談室
阪急 高槻

駅前コンタクト



〒569 高槻市城北町2-4-1ファイブプラザ3F ☎(0726)75-8141
●営業時間/AM11:00~PM7:00 ●定休日/水曜日・第3木曜日(日曜日・祝日営業)

◆◆◆◆ 地方支部総会の速報 ◆◆◆◆

発起人会につづいて、総会が次の三支部において開催されしました。とり急ぎその様子をお知らせします。

京都支部

4月17日に開催された総会には、19名の会員が集い、大学から高井隆秀学部長もお祝いにかけつけた。総会では規約案、今後の運営などについて協議し、規約等の一部補充等を決め、遅くとも明年6月中には次の総会を開催することを申し合わせて、懇親会に入り、和やかなうちに会を終えた。なお下記のとおり役員が選出された。

支部長 岩橋政寛
副支部長 篠畑俊成、川崎龍性、市橋眞明
幹事 秦 祐智、本田隆保、田中純應、松田亮如、宇喜多隆教、宝山龍一、福島仁良、壁瀬宥雅、上原雅明
監査 捨田利義猛、石坪昭真
顧問 小松道圓、藤井龍心
参与 安井玄純、岩城秀雄、高藤圓應、吉川律城、筑波常通



〈京都支部〉

九州支部

8月30日に、支部総会が佐賀市の観光ホテル「朝風」において開かれ、12名の会員の出席があり、大学から北村教授、嶋企画室次長が参加した。規約の検討、会費(2,000円)の決定等を議決し、下記のとおり役員を決定して総会を終えた。その後、懇親会に移り終始なごやかな雰囲気のもと、母校の想い出、参加者それぞれの抱負などを語り合い、来年の再会を約して閉会した。

支部長 稲佐俊明
副支部長 喜多村龍鳳、原 浩雅、長谷清彦

常任幹事 北脇良哲、森 光栄、渡辺哲性
幹事 後藤田寛昌、加藤亮匡、新野正憲、北脇良哲、森 光栄、吉水善無晃、渡辺哲性
監査 宮本真光、杉岳覚英



〈九州支部〉

西中国支部

9月17日の総会は、20名の会員参加、麻生文雄学長もかけつけ、総会の開催を祝った。総会は発起人から提案のあった規約案、役員案等を協議し、満場一致で可決。懇親会に移り、終始なごやかなうちに散会し、明年の総会での再会を約した。なお役員は下記のとおりである。

支部長 蛸田弘教
副支部長 多田隆信、東田教範、前島義雄
常任幹事 筒井清道、福島尊光、藤原豊善
幹事 村上重郷、江坂宗純、八木龍性、鈴木宏教、山本純一、増沢寛順
監査 片山宥雄、山本秀照



〈西中国支部〉

京都専門学校の
校歌について

広島県の筒井清道師（昭和19年）より、その楽譜が寄せられましたので、ここに掲載することになりました。寿岳文章先生の作詞による格調の高いものであり、曲は力強く、しかも親しみのあるものとなっています。なお、楽譜は、本学教授井上亮淳氏（昭和33年）にご協力をいただきました。

京都専門学校々歌

作詞 壽岳文章
作曲 藤井制心

力強く然し美しく MM=108

mf

1) だ い し い に し -へ え い り か し こ み
 2) そ お ん の ふ か -き あ い た に し の り て
 3) ば ん こ ふ え き -の み い つ に よ り て

mp *mf*

ほ だ い ま ん だ -ら こ と さ だ め て
 し ん り の た だ -き ゆ う べ に お も ふ
 く お ん の た ら く -ど あ ら た に う ま れ

mf

き づ き し ぼ う じ ェ こ っ か の し づ め
 だ い じ ェ の が く と し ん 衆 を み が く
 ア ジ ア の ひ が -り う だ い を て ら す

f

れ き し は げ ん た り わ れ ら の ま な び や
 れ き し は さ ん ぜ む わ れ ら の ま な び や

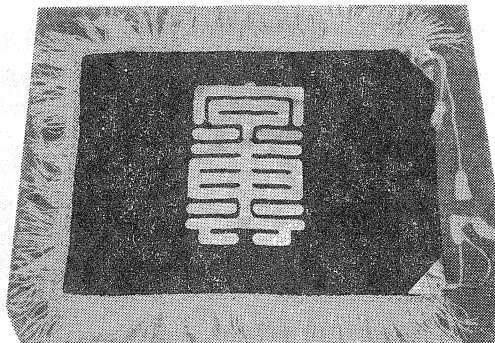
f

わ か き ひ わ -れ ら ち か ら の か ぎ り

ff

た た へ む き ェ う せん き ェ う せん -

- (一) 大師いにしへ叡慮かしこみ
 菩提曼荼羅此処と定めて
 築きし法城 国家のしづめ
 歴史は厳たり われらの学舎
 *若き日われら 力のかぎり
 たへむ京専 京専
- (二) 祖恩の深きあしたにしのび
 真理の高きゆふべにおもふ
 大乘の学徒 信慧をみがく
 歴史は煥たり われらの学舎
 (*繰り返し)
- (三) 萬古不易の御稜威によりて
 久遠の樂土あらたに生まれ
 アジアの光 宇内を照らす
 歴史は参ぜむ われらの学舎
 (*繰り返し)



京都専門学校時代の校旗

種智院大学同窓会地方支部発起人会・総会 出席者

(9月27日現在)

月日	事項	出席者(敬称略・順不同)
6/25	京都支部発起人会	手嶋千俊、岩橋政寛、捨田利義猛、本田隆保、篠畑俊成
7/4	西中国支部発起人会	江坂宗純、蛸田弘教、蛸田有全、片山宥雄、鈴木宏教 多田隆信、筒井清道、東田教範、吉田裕信
7/5	岡山県支部発起人会	松本安正、石原高喜、光澤宏二、奥寺知光、生駒研生
7/10	滋賀県支部総会	澤 実英、峯 覚海、斎藤長久、野路井宏之
7/16	兵庫県支部発起人会	民岡哲雄、平見純雄、井上紀生、今井圓明、加門得勇 池田瑩輝、足立有教、藤本浄海、祝 宏友、有井良徳
7/18	九州支部発起人会	稲佐俊明、後藤田寛昌、原 浩雄、加藤亮匡、喜多村龍鳳 北脇良哲、森 光栄、渡辺哲性
7/22	京都支部発起人会	手嶋千俊、岩橋政寛、篠畑俊成、本田隆保、捨田利義猛 宇喜多隆教、都筑大乘
8/23	奈良県支部発起人会	谷口光明、佐伯龍幸、密門光範、松村実秀、田畑祐弘 松尾初子、村岸定光
8/30	九州支部総会	稲佐俊明、宮本真光、杉岳覚英、後藤田寛昌、原 浩雄 加藤亮匡、喜多村龍鳳、阿刀暹涯、北脇良哲、森 光栄 山崎洋子、渡辺哲性
9/13	徳島県支部発起人会	白川隆雄、沖田定信、久米秀信、畠田禅峰、塩田龍瑛 岡本慈勝、池内卓雄、高石仁空、吉岡稔人、萩岡裕明 谷 薫、萩岡明海
9/17	京都支部総会	安井玄純、福島仁良、手嶋千俊、岩橋政寛、川村俊朝 捨田利義猛、河辺延應、秦 祐智、山田達圓、田中純應 尾池知定、市橋眞明、福島明道、嶋 裕海、宇喜多隆教 都筑大乘、北尾隆心、山田本然、深田修作
9/17	西中国支部総会	蛸田弘教、多田隆信、村上重郷、筒井清道、江坂宗純 八木龍性、吉田裕信、東田教範、新田 正、福島尊光 蛸田眞慧、後藤公巳、蛸田安子、藤原豊善、鈴木宏教 増沢寛順、中 豊淳、吉田正裕

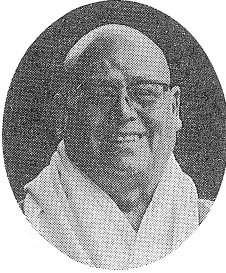
〔大学だより〕

頼富本宏教授、文学博士号取得

本学の頼富教授は、3月23日付で京都大学より文学博士の学位を取得。学位請求論文は『密教仏の研究』で、今年末には法蔵館より出版の予定。同教授の学位取得を祝って、7月22日、京都東

急ホテルにて祝賀会を開催。鷲尾隆輝理事長、麻生文雄学長、高井隆秀学部長が代表発起人となり約200名の出席があり、盛会でありました。

なお、頼富教授は、NHK教育TVの市民大学講座に出講され、「密教とマンダラ」のテーマで9月まで講義をされました。



前門跡 小林隆仁師 無事 任を終える

小林隆仁師は、昭和58年、総本山仁和寺第四十四世門跡・真言宗御室派管長に推挙され、本年6月22日まで

5年間の任期を無事果たされ退任された。

師は早くから社会福祉活動に尽瘁され、多くの功績をしるし、また、仁和寺門跡として同寺開創1100年記念大法会を挙宗一致で完遂された。各種要職を歴任されたにもかかわらず、誰をも引きこませずにはいられない暖かい人柄に、退任後も講演の依頼など訪れる人も多く、ますます元気で活躍の様子である。

黒田昇龍師、大覚寺門跡に就任

真言宗大覚寺派の臨時宗会は、5月17日、新管長に黒田昇龍師を選出、これにより、黒田師は第五十六世門跡に就任された。

黒田師は、大正14年真言宗京都大学を卒業、岡山県英田郡東粟倉村・宝妙寺住職となり、大覚寺執事、財務部長等を歴任、昭和44年には大僧正に補任されている。

本学出身の新門跡に、宗門内外からその活躍が期待されている。



(((10月22日(土) 総会)))

最初に報告したように、現在、各地において続々と支部設立のための準備が整えられ、全国各地でこれまで十分なつながりをもちえなかった同窓生の輪が、地域に根ざして、つくられていくことは、画期的なことでもあります。思えば、昨年秋に再開された総会で、同窓会の活性化が唱えられ、参加した同窓生諸氏から、大いに激励を受けたのであります。

以来十か月余り、ようやく活性化への第一歩を踏み出し、その勢いをえて、秋の総会を開くことができ、同窓会活動の再出発にふさわしい内容をつくることのできたことを、会員の皆様方と共によろこびたいと思います。

10月22日(土)、いよいよ総会開催であります。その詳細な内容は、次号でお知らせします。

今次総会において、地方支部の設立の報告がなされることとなります。各支部では、規約、役員等の組織体制が明確になり、種々の活動が営まれていることと思われまふ。こうした支部設立の大きなうねりのなかで、真の意味で同窓会の第一の使命が機能していくものと確信します。

今回、各地の発起人会などに参加することによ

り、これまで漠然とした形で伝えられていた同窓生の活躍が明らかになり、各地ですぐれた業績をあげられ、母校の名声を高めていることを本会報を通じて徐々に広めていくことも、大切なことであると確信した次第であります。

そして、今後、この盛り上がりを見失わないためにも、横のつながりをしっかりと固めて、支部活動をつみあげ、その上に本部の活動がつくられていくという、理想的な形に高めていきたいと願っています。

卒業生祝賀会を開催

3月15日、本学の卒業式が挙行されたが、その後、恒例の卒業生祝賀会を本年度は同窓会と大学との共催で、京都東急ホテルにて開催した。同窓会では、本会への入会を祝う意図から、手嶋千俊副会長ら役員も多数出席した。

祝賀会は、麻生文雄学長、手嶋千俊副会長がお祝いの挨拶をし、卒業生を代表して、峯裕雅君が御礼の言葉を述べた。

つづいて同窓会監査吉田裕信氏より乾杯の音頭が発せられ、祝宴がはじまり、恒例の卒業生一人一人による進路先等の紹介があり、佐藤学生部長の閉会の辞、井上宗教部長の万歳三唱で散会した。

『同窓会会員名簿』の刊行

名簿刊行を望む声は、以前から高かったが、さまざまな困難な問題があって、実現できなかった。最近では、昭和54年度卒業生が中心となってつくられた『卒業生名簿』がある。

そこで、同窓会活動の活性化のために、その基本となるべき名簿の充実を考え、その準備に着手した。まず、会則により、在籍した人々をいかにして検索するかが最も大変なことであった。また、編集の都合上、卒業年次を区切って構成しなければならない。しかし中途退学された方々をどこに位置づけるかは論議のあるところで、統一することは困難をきわめた。また、得度等で姓名が変わり、住所等の移動も多くあって、いつも返送される郵便物に悩んでいるが、これらの問題を如何にするかが、次の問題であった。

これらのことを考え、支部設立の会などでえた会員の方々の動向を逐一、なおしていったが、そのたびに、印刷所から苦情を聞き、つらい日々もあり、また、完全にという至上課題のため、何回も校正を重ねております。

しかし、これほどに努力をしても、住所や氏名の違い、漏れなど次々とあらわれ、また会員の方々からの情報も次々と寄せられ、大変感激しております。何ととしてでもよいものをと願っております。

なお、名簿は十月末か十一月上旬には刊行し、申し込みを総会の出欠回答の葉書にてご連絡下さいますようお願いいたします。代金は郵送料込で2,500円。

なお、名簿は今後も完全を期すようにしていくために、住所等の移動がありましたら、至急、本部事務局までご連絡下さい。

◎発起人会開催経過

6月25日	京都支部	於 種智院大学
7月4日	西中国支部 (広島・山口・島根)	於 福山市
7月5日	岡山県支部	於 岡山市
7月16日	兵庫県支部	於 神戸市
7月18日	九州支部	於 佐賀市
7月22日	京都支部第2回会合	於 京都市
8月23日	奈良県支部	於 奈良市
9月13日	徳島県支部	於 徳島市

◎設立総会 (予定を含む)

7月10日	滋賀県支部	於 彦根市
8月30日	九州支部	於 佐賀市
9月17日	京都支部	於 京都市
9月17日	西中国支部	於 広島市
9月29日	兵庫県支部	於 神戸市
9月29日	奈良県支部	於 橿原市
10月4日	北陸支部(福井、石川、富山、新潟)	於 高岡市
10月5日	岡山県・鳥取県支部	於 岡山市
10月7日	徳島県支部	於 徳島市

世界人権宣言40周年記念行事

本学では、世界人権宣言40周年を記念して、人権問題委員会が中心となって、次のような公開講

同窓会会費納入のお願い
について！

- ①会費納入について、会則第1章総則第2条(目的)、第2章会員第4条(会員)のとおり卒業生・本学に関係をもったもの全員が会員であることを原則に終身会費2万円の納入をお願いいたします。
- ②現在年会費納入者(普通会員で2万円迄の途中納入者)は、出来るだけ終身会員(会費2万円)となっていただきますようお願いいたします。
- ③現在会費納入が完了(終身会員2万円以上)の会員は同期生等への納入の呼び掛けをお願いいたします。
- ④同封の郵便振込用紙(払込通知票)を利用いただきますと振込料金がありません。必要事項をご記入(裏の通信欄等も含む)下さいますようお願いいたします。
- ⑤ご入金等にお気付きの点がございましたらご一報下さいますようお願いいたします。

演会を行なう。同窓諸氏の多数のご来聴をお待ちしています。

日時 11月11日(金)午後2時～3時、於本学
講師 折衝中

昭和64年度 種智院大学入試要項

1 学部・学科・コース・募集人員

(1) 仏教学部・仏教学科 $\left\{ \begin{array}{l} \text{仏教学コース} \\ \text{密教学コース} \\ \text{仏教福祉学コース} \end{array} \right\}$ (推薦入試、一般入試) 40名

(2) 編入生 若干名

★ 推薦入試

○高等学校を昭和64年3月卒業見込の者と昭和63年3月卒業の者で、出身学校長の推薦が得られる者。

★ 編入生

大学・短期大学において相当単位を修得した者。

2 試験科目

推薦 基礎学力テスト、作文

1次 } 国語(国語Ⅰ・Ⅱ) [漢文を除く]

2次 } 外国語(英語Ⅰ・Ⅱ)、作文

3 試験日程

	出願期間	試験期日	合格発表	入学手続締切日
推薦	11/4(金)~11/24(木)	12/1(木) 9:30	12/3(土) 10:00	12/13(火) 必着
1次	1/12(木)~2/2(木)	2/9(木) 9:30	2/13(月) 10:00	2/23(木) 必着
2次	2/24(金)~3/17(金)	3/24(金) 9:30	3/27(月) 10:00	4/5(水) 必着

(編入志願者は、1次・2次のいずれかを受験してください。)

「西院流能禅方伝授録」

全七巻

加藤宥雄編

定価 六五、〇〇〇円

「八結・金玉・異水伝授録」

全一卷

加藤宥雄編

定価 一三、〇〇〇円

「西院流伝授手控」

土宜法龍筆・加藤宥雄筆写

定価 二、〇〇〇円

「堂上儀西院流傳法灌頂教授手鑑」

加藤宥雄筆写

定価 三、〇〇〇円

「東寺定額僧院之血脈相承次第」

定価 八〇〇円

種智院大学密教学会

京都市南区壬生通八条下る東寺町五四五
 ☎(〇七五)六八一―六五一三 一六〇一
 振替京都〇―三〇三八